

地域を担い、未来を生きる力を備えた生徒の育成

《令和5年度後期との比較》

※評価方法は裏面に記載

＜視点1＞【安全・安心に学べる学校】						
具体的な取組	アンケート結果			自己評価	成果と課題及び分析	改善策
<p>ア いじめ・不登校のない学校づくりの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒会を中心に主体的な活動によるいじめのない学校づくり 生徒理解の会・アンケート(毎月)、Q-U調査(年2回)の実施と早期対応 <p>イ 安全教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 危機管理マニュアルの共通理解・改善 計画的な避難訓練等防災教育の実施 安全点検(毎月15日)の確実な実施と早期改善 <p>ウ 道徳教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 特別の教科道徳を要とした道徳教育の推進 指導方法の改善と評価の工夫 <p>エ 体力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> 「体力アップ1校1プラン」の実施(各個人の目標を持たせる) <p>オ 学校給食を核とした「食育」の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 食教育の実践及び〇〇給食の実施 食物アレルギーへの組織的な対応 	生徒	学校は楽しい。	100%	➡	a	4
	保護者	お子さんは、「楽しそうに学校に行っている」と思いますか。	89%	➡	b	3
	生徒	困っている友だちがいたら、助けてあげようとしている。	100%	➡	a	4
	生徒	自分にはよいところがある。	81%	➡	b	3
	保護者	学校は、親切・思いやりの心を育てようとしていると思いますか。	97%	➡	a	4
	生徒	学校のきまりを守って、生活している。	100%	➡	a	4
	教員	学校は、生徒が学校のきまりを守り、安全に生活できるよう指導している。	92%	➡	a	4
	生徒	みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがある。	100%	➡	a	4
	保護者	学校は、いじめのない学校づくりに積極的に取り組んでいると思いますか。	100%	➡	a	4
	保護者	先生は、子ども達のことをよく理解しようとしていると思いますか。	94%	➡	a	4
	教員	学校は、生徒同士のよりよい人間関係づくり(いじめ・不登校の未然防止)に努めている。	92%	➡	a	4
	教員	学校は、生徒の小さな変化に気づいたときには、すぐ行動している。	92%	➡	a	4
	保護者	学校は、生徒の安全を守るために努力していると思いますか。	97%	➡	a	4
	教員	学校は、定期的な危機管理マニュアルを確認して行動している。	92%	➡	a	4
A ↓ A					<p>○「学校は楽しい」と感じる生徒の割合は100%である。 →生徒会活動等で、生徒同士が楽しめる活動をすることで、一体感を感じられたのではないかと。</p> <p>△「自分にはよいところがある」と回答した生徒の割合は減った。 →1年生に否定的回答をしている生徒が多い。1年生が「できた」「やれた」と感じる場面が少ないからではないか。</p> <p>○「学校のきまりを守って、生活している」と感じる生徒の割合は100%になり、学校のきまりを理解し、安全に生活しようとしている。</p> <p>○「みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがある」と100%の生徒が答えており、成功体験を経験した生徒が多い。また保護者も、先生が子ども達をよく理解しようとしていると思っている。</p> <p>○小中合同避難訓練を3回行い、危機管理マニュアルを確認する機会が多かった。</p>	
						<p>・生徒会活動や各種行事等で、生徒中心の活動の継続的な実施と、振り返りで、互いのよさや頑張りを認める活動を行っている。</p> <p>・関わっている全教員がそれぞれ、生徒のがんばりや当たり前でもできていることを褒めて認めていく。</p> <div style="border: 1px solid red; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p><改善策></p> <ul style="list-style-type: none"> ○生徒中心の活動・相互評価場面 ○自己肯定感を高める取組 </div> <p>・生徒が何かをやり遂げたときに、よさや頑張りを教員が認める場面をつくっていく。また、保護者と連絡を密に、良いことも連絡し、生徒の活動を伝える必要がある。</p>

＜視点2＞【確かな学びを保障する学校】						
具体的な取組	アンケート結果			自己評価	成果と課題及び分析	改善策
<p>ア 松波中スタンダードの実践と改善</p> <ul style="list-style-type: none"> 計画に沿った確実な指導と、実践に基づいた計画への改善 <p>イ 学力向上ロードマップ・プランに基づく学力向上の取組推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 対話的で深い学びへの授業改善 シンプルな学校研究の推進 家庭学習の量と質の改善 家庭と連携した基本的な生活習慣への改善 <p>ウ 授業力向上の取組推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 1人年2回以上の公開授業及び研究授業の実践 指導技術の系統化 ICT機器の効果的活用 <p>エ 海洋教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 「海洋教育推進事業」の計画的な実施 SDGsを意識した体験活動の推進 <p>オ 特別支援教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 専門相談員等の活用 校内支援委員会の定期的開催 	生徒	授業の内容はよくわかる。	100%	➡	a	4
	保護者	失敗してもあきらめずに、粘り強く取り組もうとしている。	89%	➡	b	3
	保護者	お子さんは、授業(勉強)の内容がよくわかると感じていますか。	64%	➡	d	1
	教員	私は、個々の習熟の状況に応じて、補充的・発展的な指導を行っている。	100%	➡	a	4
	教員	私は、分かりやすい授業となるよう、ICT機器(モニター・タブレット等)の効果的な活用に努めている。	100%	➡	a	4
	生徒	自分の考えを相手にわかるように伝えることができる。	78%	➡	c	2
	教員	私は、言語活動を重視し、生徒に説明・記述させる授業への改善をすすめている。	100%	➡	a	4
	生徒	授業の課題に対して、意欲的に取り組むことができる。	72%	➡	c	2
	生徒	毎日、家庭学習の目標時間を守って取り組んでいる。(1年60分、2年70分、3年80分)	56%	➡	d	1
	保護者	お子さんが家庭学習に取り組む姿は、十分だと感じていますか。	33%	➡	d	1
	教員	私は、普段の家庭学習の量や質が改善するように指導している。	91%	➡	a	4
	生徒	五定点を守って生活している。(起床・朝食・就寝の時刻)	75%	➡	c	2
	保護者	お子さんは、早寝・早起きをしていますか。	56%	➡	d	1
	教員	学校は、五定点を守った生活となるよう指導している。(起床・朝食・就寝の時刻)	92%	➡	a	4
	生徒	家で、インターネットは1日にどれくらい使っていますか。(A:1時間未満 B:1時間～1.5時間未満 C:1.5時間～2時間未満 D:2時間以上)	50%	➡	d	1
	保護者	お子さんは、インターネットの使用についての「家庭のルール」を守っていますか。	44%	➡	d	1
	教員	学校は、ネット利用のきまりの必要性や守ることの大切さを指導している。	92%	➡	a	4
	生徒	学校では、生徒同士でお互いのがんばりを認め合う場面がある。	92%	➡	a	4
生徒	先生はがんばったことをほめたり、認めたりしてくれる。	86%	➡	b	3	
教員	生徒ががんばったことをほめたり、認めたりしている。	100%	➡	a	4	
保護者	学校は、「学び合い・認め合い・高め合い」によってお子さんの力をのばそうとしていますか。	92%	➡	a	4	
C ↓ C					<p>○全員の生徒が「授業の内容はよくわかる」と回答した。 △保護者「(我が子が)授業の内容がよくわかると感じている」と回答した保護者の割合が64%となった。 →生徒と保護者の意見に大きな差がある。保護者は、「わかる」=「テストで点数が取れる」と思っている可能性があり、点数として結果につなげる事が必要なのではないだろうか。また、一人一人のステップや、それに対する到達度について保護者面談等で説明する必要があるのではないかと。</p> <p>○教員は、学力向上の取組を意識して指導している事がわかる。 △「授業の課題に対して、意欲的に取り組むことができる」が72%であり、3割の生徒が意欲をもって取り組めていない。 →生徒の実態に合った課題設定になっていないのではないかと。</p> <p>△生徒「毎日、家庭学習の目標時間を守って取り組んでいる」が56%や生徒「五定点を守って生活している」が75%と低い。 →生活リズムチェック週間では、意識して取り組むことができているが、それが終わると意識できないのではないかと。</p> <p>△保護者「お子さんが家庭学習に取り組む姿は、十分だと感じていますか」が33%、保護者「お子さんは、早寝・早起きをしていますか」も56%と低い。 →生徒自身も家庭学習が十分ではないと認めている。しかし、教員は意識して指導していると回答しており、教員が指導したことが、生徒に伝わっていない。実態把握とそれに応じた適切な指導の継続が必要なのではないかと。</p> <p>△生徒が1日にインターネットを使用する時間が長くなっている。 →家庭学習を行う時間とインターネットを使用する時間、五定点を守った生活には密接な関係がある。自律的な家庭生活の改善に向けた指導を継続して行う必要があるのではないかと。</p> <p>○92%の生徒が「お互いのがんばりを認め合う場面がある」と感じている。 △教員は全員が生徒の頑張りを認めていると回答しているが、生徒は、86%であり、教員と生徒の間に差がある。 →教師は認めているつもりでも、生徒に伝わっていないのではないかと。</p>	
						<p>・コンテストなどの取組で、苦手な生徒に対して、個別指導を行う。</p> <p>・毎時間の課題を設定するときに、生徒の実態に合った課題を設定する。</p> <p>・保護者面談等での説明を行う。</p> <div style="border: 1px solid red; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p><改善策></p> <ul style="list-style-type: none"> ○個別指導の充実 ○課題設定の工夫 ○保護者への説明の機会 </div> <p>・生活リズムチェック週間を学期に1回ではなく、複数回行う。</p> <p>・家庭学習に取り組む必要性や取り組み方、生活時間の調整、ネットとの上手なつき合い方について、自己指導能力の育成を意識して保護者とも連携しながら具体的な指導をすすめる。</p> <div style="border: 1px solid red; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p><改善策></p> <ul style="list-style-type: none"> ○家庭学習の量と質の改善 ○家庭と連携した基本的な生活習慣への改善 ○生活リズムチェック週間の取組 ○ネットとの上手なつき合い方 等 </div> <p>・「デジタル・シティズンシップ教育」の研修で学んだ実践にそれぞれの学年で取り組み、学年だより等で保護者へも取り組んだ内容を共有する。</p>

＜視点3＞【職員が協働し高めあい確かな指導力を育成する学校】								
具体的な取組	アンケート結果				自己評価	成果と課題及び分析	改善策	
ア 業務改善の取組推進 ・校務分掌の明確化、平準化と効率的な取組への改善 ・事案決定システムの改善 ・月2回の定時退校日(毎週水曜日) ・最終退校時刻(午後7時)の徹底 イ 若手早期育成プログラムの実施 ・計画的な実施と内容の改善 ウ 服務規律の向上に向けた取組推進 ・日常的な服務規律に関する具体的な指導と徹底	教員	学校は、教育目標を具現化して、教育活動に取り組んでいる。	100%	▲	a	4	△業務改善のPDCAサイクルが十分に機能していないことで、業務の効率化につながっていない。 →見通しを持った業務ができていないことが多忙化につながっているのではないかと。	・早めの提案を心がけるように、切日を早めに設定し、見直しを持って取り組ませるようにする。 ・年間行事計画を意識し、早い段階での相談や6割起案による業務内容の見直しを行う。 ・定時退校日(毎週水曜日)や退校目標時刻を明確に示して、全職員に呼び掛けていく。
	教員	学校は、PDCAサイクルを回した業務となるように努めている。	83%	▼	b	3		
	教員	校内・校外の研修に積極的に参加し、教師としての力量が高まるよう努めている。	100%	▶	a	4		
	教員	私は、業務の効率化をすすめ、午後7時までに退校するよう努めている。	75%	▼	b	2		
3.3							<改善策> ○業務の平準化・効率化 ○定時退校日や退校目標時刻の明確	

＜視点4＞【地域社会の一員として信頼される学校】								
具体的な取組	アンケート結果				自己評価	成果と課題及び分析	改善策	
ア 「地域学習」の充実 ・公民館等の地域と連携した体験活動の推進 ・まちの先生を活用した教育活動の企画と実施 イ 家庭や地域とのコミュニケーションの促進 ・定期的な学校公開 ・学校評価、学校関係者評価の実施と活用の充実 ・学校だより等の配布、HPによる情報発信	生徒	地域の人に、自分からすすんであいさつをしている。	97%	▶	a	4	○生徒はすすんであいさつができています。 △生徒は、「地域についての学習」をしている実感が乏しい。また、「地域の出来事」についての回答について、その肯定的割合は下がった。 △前期は、震災の影響により、使用が難しい施設が多く、地域と連携した体験活動が例年より少なかったからではないかと。 △教員はさらに地域についての学習や、まちの先生を計画的な活用をしていく必要がある。 ○保護者は、「学校からの各種便りやホームページでの情報発信は十分である」と感じている。 ○生徒指導上で気になったことについては、保護者との連絡を密にして協力合っている。	・地域学習で使用できる施設等の確認をし、これまでの活動でつながってきた地域の方々と連絡をとって、地域での体験学習を積極的に計画し、実施していく。 ・震災後の復興や地域の情報の掲示や通信等で発信し、関心をもてるようにする。 ・今後も保護者と連絡を密に行い、生徒指導上、気になることだけでなく良いことも連絡していく必要がある。
	保護者	お子さんは、すすんで挨拶ができていますか。	83%	▶	b	3		
	生徒	地域やふるさとについての学習に積極的に取り組んでいる。	69%	▼	d	1		
		地域の出来事に関心がある。	78%	▼	c	2		
	保護者	お子さんは、地域のよさや大切さを感じていますか。	92%	▶	a	4		
		学校は、地域と連携した体験活動にすすんで取り組んでいると思いませんか。	92%	▶	a	4		
	教員	地域の教材・人材を計画的に授業に取り入れている。(予定である)	100%	▶	a	4		
	保護者	学校は、保護者との連絡を密にしていると思いませんか。	94%	▲	a	4		
学校からの各種便りやホームページでの情報発信は、十分ですか。		100%	▲	a	4			
教員	学校は、地域・保護者へ、積極的に情報発信を行っている。	100%	▶	a	4			
3.4							<改善策> ○体験活動での地域学習の意識付け ○震災後の復興や地域の情報の発信	

＜アンケート集計から自己評価までの流れ＞
 ① アンケート結果から、それぞれの項目をa～dの4段階に評価する
 「そう思う」+「だいたいそう思う」が90%以上 ⇒ a
 「そう思う」+「だいたいそう思う」が80%以上 ⇒ b
 「そう思う」+「だいたいそう思う」が70%以上 ⇒ c
 「そう思う」+「だいたいそう思う」が70%未満 ⇒ d
 ② ①の4段階の評価を、a=4 b=3 c=2 d=1とし、平均を出す

③ 以下の基準で平均値から自己評価を行う
 平均が3.5以上 ⇒ A
 平均が3.0～3.4 ⇒ B
 平均が2.3～2.9 ⇒ C
 平均が2.3未満 ⇒ D

▲ 5%以上増えている ▼ 5%以上減っている
 ▲ 10%以上増えている ▼ 10%以上減っている

・学校の統合にあたり、部活とクラブの待遇が異なるので、きちんと説明して行ってほしいと思います。
 ・部活動の予定表を月の初めに出してほしいです。ホームページでも良いので・・・。
 ・お世話になっております。これからもよろしくお願いします。